

一〇二五年八月一日

根上りの杉屹立す道涼し
天仰ぐ顔に両手に喜雨浴びる

一〇二五年七月三一日

レガッタの水面を削る櫂捌き

一〇二五年七月三〇日

全山がスピーカーめく蟬時雨
深き谷覆ひつくして葛嵐
蝉時雨びたりと止みし亭午かな
と見る間に干し物乾く猛暑かな

一〇二五年七月二九日

膝つけば焼けつく墓碑や炎天下
つばくらめよちよち歩きの子を掠め

一〇二五年七月二八日

連打また連打佳境の遠花火
朝日差す稻の穂先に万の露

一〇二五年七月二七日

広げたる夜干の梅に添ひ寝せむ
断崖の狭間の瀬に舟あそび

山 椒
ムベ

千 鶴
ヤヨイ

康 子
ナツキ

山 椒
ムベ
えいいち
こすもす

なつき
ほたる
山頭火句碑に縋りし蟬の殻
聞き役に徹して団扇風送る

康 子
モトコ
こすもす
なつき

一〇二五年七月二六日

毎日句会みのる選・一〇二五年八月三日

数珠繰りつくぐもる読経地蔵盆
豊の秋山田錦の幟たつ
山頭火句碑に縋りし蟬の殻
聞き役に徹して団扇風送る